

本当に必要？名神湾岸連絡線

総額600億～700億円、さらに膨らむ可能性も

現在、県が都市計画決定の準備を進める名神湾岸連絡線。現時点では国が事業予定者ですが、ネクスコ西日本か(株)阪神高速道路のいずれかが加わり事業化する予定。建設地である西宮市は直接の事業者にはなりません。しかし、県の環境影響評価や都市計画決定に意見表明はでき、この二つは同時に手続きが進められています。すでに3回開催された西宮市環境影響評価専門委員会の意見を踏まえ、10月に市は環境影響評価における意見を県に提出。11月13日開催の西宮市都市計画審議会では、石井市長が県から都市計画に対する意見を求められ、審議が行われましたが、まつお正秀議員が唯一反対したのみで、名神湾岸連絡線道路計画推進が賛成多数で可決されました。

まつお議員が反対住民の声を代弁

この計画に反対の立場で、これまで議会の一般質問などを行ってきた日本共産党市会議員団。

特に、かつて国道43号線裁判を闘った今津地域の方たちの、騒音、日照、大気汚染、景観など「環境をこれ以上破壊する高速道路は必要ない」という声を取り上げてきました。

まつお議員は、都計審で次の3つの点を指摘して反対しました。1点目は環境影響評価準備書で騒音と振動の2項目で県の評価基準を大幅に超えていること。2点目は西宮市環境影響評価専門委員会でも、委員が「現環境基準をクリアしているだけでよしとは言えない」「事業者の実行可能な範囲で適切な措置を講じる」

という国の見解が多く示されているが、あまりにも不十分と不満の声が出されていること。3点目には、六甲アイランドから延長されている西伸部工事の完成後、改めて計画の検討ができることを指摘しました。

今後の議論は県の都市計画審議会です

石井市長は県への環境影響評価意見書に、環境の点では専門家の意見を一定反映させましたが、県の都市計画決定には意見を付して「異議なく推進」の立場です。

県は名神湾岸連絡線建設にはより積極的推進の立場ですが、今後は県の都市計画審議会へと議論の場が移ります。



名神湾岸連絡線とは

現在、久寿川駅近くが終点の名神高速道路。この地点から高架で阪神高速5号湾岸線を結び、名神高速から阪神高速3号線大阪方面に行けるようにすると併せ、新たに西宮浜から5号湾岸線への出入り口を設け、名神高速、阪神高速3号線、阪神高速5号湾岸線の3路線をどちらの方向にも行けるようにジャンクションなども新たに設ける計画の道路です。長さは約3kmで、最大高さは28mにもなる片側一車線の高速道路。現在行われている六甲アイランドから長田区までの西伸部工事と完成時期を合わせるとしています。

